

都市構造可視化の活用

群馬県

都市計画課 都市計画係

1. 都市計画区域マスタープランにおける土地利用方針検討会

外部有識者や市町村職員を招いた検討会の場で活用



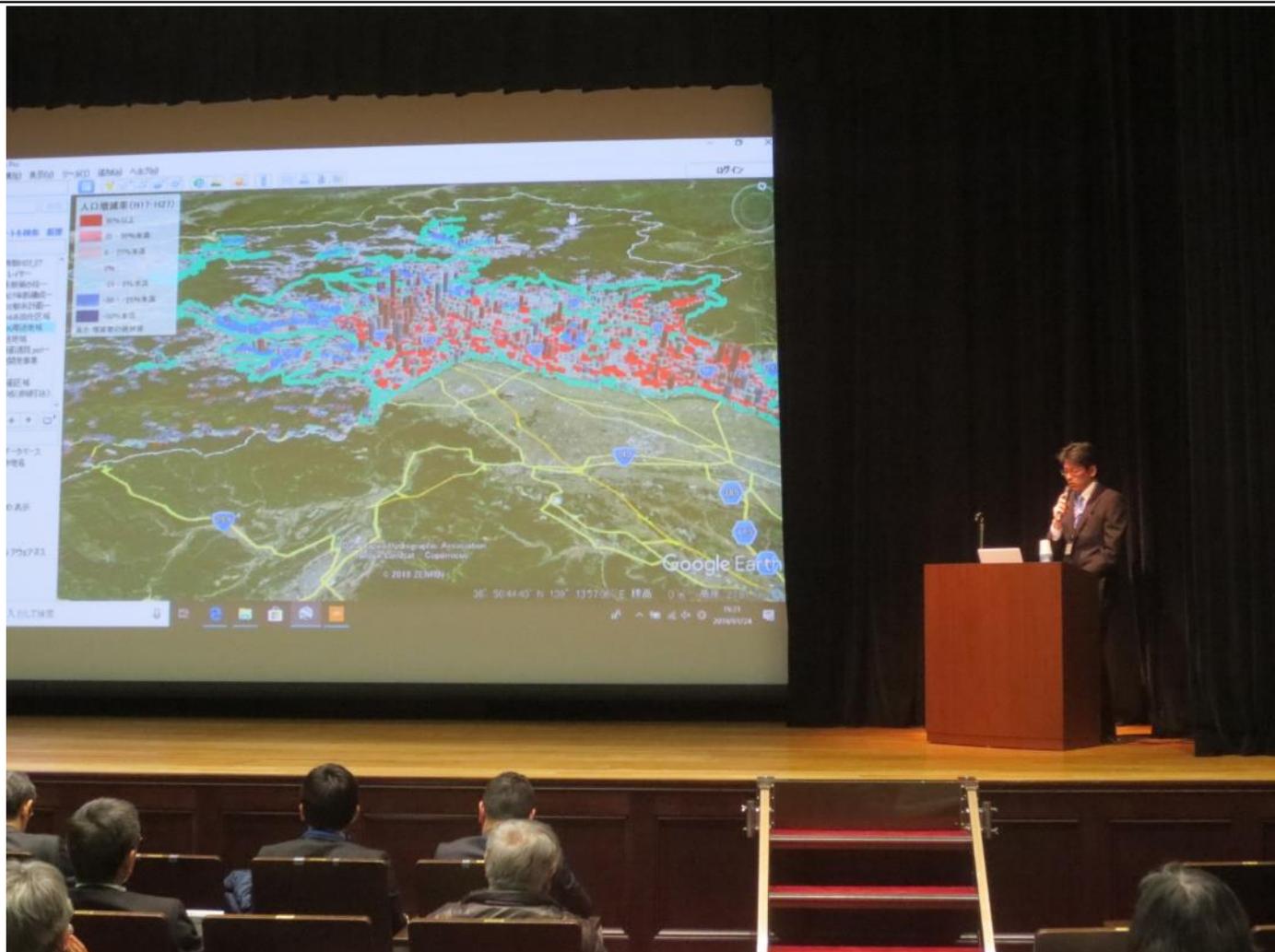
1. 都市計画区域マスタープランにおける土地利用方針検討会

まちづくりの現状と課題について都市構造の可視化を用いて説明



2. ぐんま “まちづくり” ビジョンシンポジウム

県主催のシンポジウムで都市構造可視化の紹介



2. 群馬県ホームページ

県民向けに「まち」の現状について紹介するHPを作成

群馬県の「まち」の現状について
～「まち」中心部の人口減少と広がりつづける「まち」～
将来、あなたの「まち」が危ない!?

トップページ まちのまとめり 統計データ よくある質問 リンク集 お問い合わせ

群馬県では、これからの都市計画の方向性を示す都市計画区域マスタープランの改定に向け、この10年で群馬県の「まち」全体や身近な地域がどう変わったかをGoogle Earth®上で誰でも見える形で分析しており、今回途中経過を県HPで公表することとしました。たくさんの県民のみなさんにHPにアクセスしていただき、ぐんまの「まち」の現状を知っていただくことで、今後のまちづくりの方向性を一緒に考えていきたいと思っています。

このトップページでは現在「まち」の現状について特徴的な部分を画像を使ってご説明していますが、「統計データ」ページから各種データをダウンロードしてGoogle Earth®上に表示することで、皆様がお住まいの「まち」がどのように変化したか視覚的に確認することが出来るようになっていきます。

群馬県の現状としては全体的には活力が維持されていますが、人口減少傾向にあり、同時に高齢化が進展しています。一方で、「まち」は駅周辺等の中心部から郊外に広がりつづけており、中心部での空き地・空き屋も増加しています。

「まち」が広がるということは、道路や水道など恒久的に維持し続けなければならない社会インフラも広がるということであり、今後の人口減少と併せて考えれば、将来的には今より少ない人数で、今より多くなった施設を維持しなければ

群馬県の人口の動向と将来の見通し

群馬県の総人口は平成16年(2004年)の203.5万人をピークに減少し、平成57年(2045年)には155万人程度となる予測です(1960年と同程度)
また、生産年齢人口(15～64歳)が40万人減少する一方で高齢者割合は増加し人口の約4割が高齢者となります。

年	人口(万人)
2004	203.5
2010	200.0
2015	195.0
2020	190.0
2025	185.0
2030	180.0
2035	175.0
2040	170.0
2045	155.0

2. 群馬県ホームページ

まちの現状を都市構造可視化画像で紹介、統計データのDLも



まちの現状を3D画像で視覚的に閲覧ができます。

このサイトにある統計データをダウンロードして、無料のGoogle Earth®をご利用ください。下記の項目にあるような立体画像を閲覧できます。

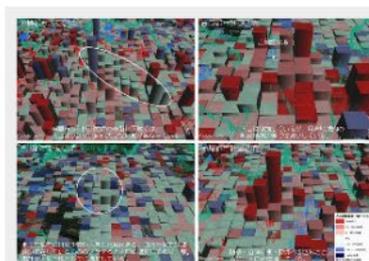
[統計データはこちらから](#)

1 「まち」中心部での人口減少の進行

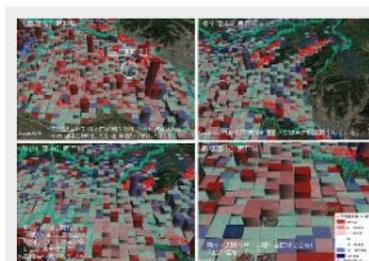
総人口が減少するなかで、特に、**市街化区域**や**用途地域**及び**駅周辺**など公共交通の利便性が高く本来「まちのまとまり」を形成すべき地域で人口減少傾向がより大きい。



群馬県南部の人口の増減(H17～H27)



前橋・渋川・吉岡・赤城の人口増減



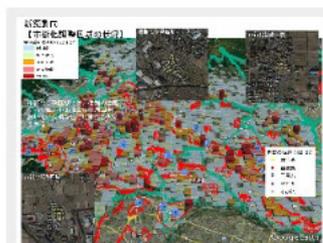
太田・桐生・みどり・敷塚

2. 群馬県ホームページ

まちの現状を都市構造可視化画像で紹介

2 止まらない郊外部への「まち」の拡散

市街化区域や用途地域の外側で依然として宅地化が進行している。また、本来市街化を抑制すべき市街化調整区域においても依然として広範囲にバラバラと新規建築が行われている。



新築動向
(市街化調整区域の状況)



新築動向
(非線引き都市計画区域の状況)

3 「まち」中心部での高齢化

山間部だけでなく、駅等を中心とした昔からにぎわっていた「まち」の中心部で高齢化が進んでおり、年齢構成が大きく偏っている。



高齢人口の分布 (平成27年)

群馬県 都市計画課 都市計画係